

株式会社フィスコ 事業のご報告

第15期（平成20年1月1日-12月31日）



株主の皆様へ

株主の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

当社第15期事業年度（平成20年1月1日～12月31日）が終了いたしましたので、同期における当社の事業概況についてご報告申し上げます。

また、平成21年3月25日には第15回定時株主総会を開催し、招集ご通知にてご案内のとおり、報告及び決議を下記のように行いました。

報告事項

「第15期（平成20年1月1日から平成20年12月31日まで）事業報告、計算書類及び連結計算書類ならびに会計監査人及び監査役会の連結計算書類監査結果報告の件」

決議事項

- 第1号議案『定款一部変更の件』 原案どおり承認可決されました。
- 第2号議案『取締役5名選任の件』 原案どおり承認可決されました。
- 第3号議案『補欠監査役1名選任の件』 原案どおり承認可決されました。

第16期も、株主様をはじめ関係者の皆様のご期待にそえるよう、事業成長・企業価値向上に全力を傾注して努める所存でございます。

株主の皆様におかれましては、引き続きご支援のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

株式会社フィスコ 代表取締役 三木 茂

【第15期事業ハイライト】

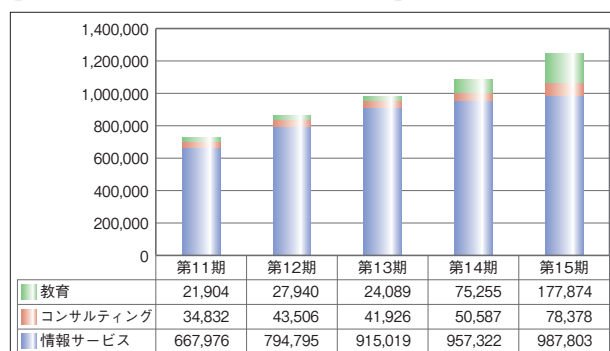
第15期連結会計年度においては、国内株式市場の低迷が続き、厳しい経営環境となりましたが、当社グループでは新規事業の発掘や新サービスの開発投資を積極的に進めました。アジア中心の新興国市場を調査対象とするリアルタイム情報「エマージング・マーケット・ウォッチ」の提供開始や、携帯電話向け株式・為替情報「フィスコ モバイル」の開発など、将来の収益基盤獲得へ向けたサービスを開始しました。

当連結会計年度の売上高は、対前期比14.9%増加の1,244百万円でした。これは前連結会計年度に連結子会社とした、個人投資家向けに各種サービスを展開する株式会社フィスコプレイスト、教育事業の主力を担うシグマベイスキャピタル株式会社の2社を加えたグループ全体の拡大によります。一方、営業損失は147百万円、経常損失は236百万円となりました。これは、上記連結子会社2社増加による営業費用の増加と、TAKMAキャピタル株式会社の投信事業拡大に伴う人員拡充等が主たる要因です。

当期純損失は、財務健全性の観点から関係会社株式をはじめとする保有資産の評価を厳格に行い、大幅な評価減を実施した結果、467百万円の特別損失を計上したことにより、613百万円となりました。

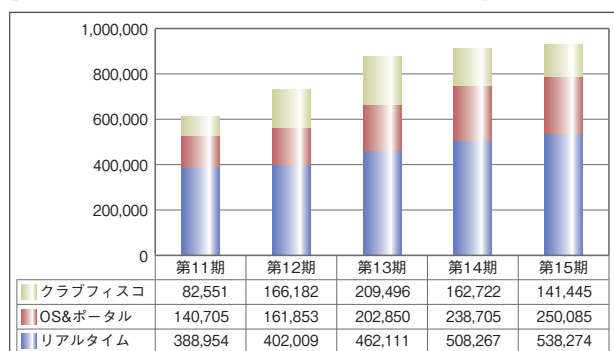
【セグメント別事業の売上高推移】

（単位：千円）



【情報サービス事業における主要3サービスの売上高推移】

（単位：千円）



（注）第11期は、決算期変更により平成16年7月1日から平成16年12月31日までの6ヶ月間となっております。

連結財務諸表

連結貸借対照表（要約）

当連結会計年度の取組みとして、資産の厳格な評価の実施をいたしました。抜本的な財務体質改善を実施し、収益力を高め、競争力、企画力を保持し、投資家や従業員をはじめ、利害関係者に寄与する優良企業を目指していくことを目的としております。株主の皆様には何卒ご理解賜りますよう、お願い申し上げます。

当連結会計年度末の資産合計は、864百万円となりました。前期末と比較して、1,257百万円減少しております。

連結貸借対照表における主な変動要因を、以下にご説明いたします。

(単位：百万円)

	当期末 平成20年12月	前期末 平成19年12月	増減
流動資産			
(資産の部)			
流動資産	528	1,240	△711
現金及び預金	314	985	△670
固定資産			
固定資産	336	876	△539
有形固定資産	48	100	△51
無形固定資産	18	176	△158
①のれん	—	73	△73
②ソフトウェア	15	100	△85
投資その他の資産	269	600	△330
投資有価証券	165	477	△312
資産合計	864	2,122	△1,257
(負債の部)			
流動負債	213	220	△6
固定負債	186	355	△169
(純資産の部)			
純資産	465	1,546	△1,081
(株主資本)			
利益剰余金	△626	△13	△613
少数株主持分	—	476	476
負債・純資産合計	864	2,122	△1,257

流動資産
TAKMAキャピタル社を売却したため、同社の現預金が連結から外れました。(△527百万円)
次期以降は、事業の安定的継続を優先し、経営資源、特に現金残高の維持・確保に努めてまいります。

固定資産
厳格な評価の結果、下記の資産が減少しました。(関連：連結損益計算書の特別損失の説明をご参照ください。)

有形固定資産（器具及び備品）
フィスコ社減損損失 (△16百万円)

無形固定資産
①のれん（子会社のれん減損損失）
フィスコプレイス社 (△51百万円)
シグマベイスキャピタル社 (△14百万円)

②ソフトウェア
フィスコ社 (△63百万円)
フィスコプレイス社 (△13百万円)

流動負債及び固定負債
フィスコ社、シグマベイスキャピタル社の借入金（短期・長期）を返済しました。(△180百万円)

利益剰余金
当期純損失613百万円を計上しました。資本金、資本剰余金については、増減はございません。

少数株主持分
TAKMAキャピタル社の連結除外が主因です。従来合算していた純資産が連結から外れ、これに伴い、少数株主持分も消えました。

(単位：百万円)

連結株主資本変動書（要約）

	株主資本					評価・換算差額等			新株予約権	少数株主持分	純資産計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他有価証券評価差額金	為替換算調整勘定	評価・換算差額等			
平成19年12月31日残高	748	402	△13	△43	1,094	△18	△5	△23	0	476	1,546
連結会計年度中の変動額											
当期純損失			△613		△613						△613
新株予約権の失効									△0		△0
株主資本以外の項目の連結会計年度中の変動額（純額）						9	△1	7		△476	△468
連結会計年度中の変動額合計	—	—	△613	—	△613	9	△1	7	△0	△476	△1,081
平成20年12月31日残高	748	402	△626	△43	481	△9	△6	△16	—	—	465

連結損益計算書（要約）

当連結会計年度の売上高は1,244百万円でした。前期と比較して、160百万円14.9%増加しております。一方、売上原価と販売費及び一般管理費の増加により営業損失は147百万円（11.9%減少）、営業外費用として、持分法適用会社2社に関する投資損失が増加したことを主因に経常損失は236百万円（19.0%減少）、当期純損失は多額の特別損失（467百万円）を計上したことにより、613百万円となりました。連結損益計算書における主な変動要因を、以下にご説明いたします。

	当期	前期	増減
	平成20年1月1日～ 平成20年12月31日	平成19年1月1日～ 平成19年12月31日	
売上高	1,244	1,083	160
売上原価	439	380	58
売上総利益	804	702	102
販売費及び一般管理費	952	869	83
営業損失	147	166	△18
営業外収益	7	3	3
営業外費用	96	34	61
経常損失	236	196	△39
特別利益	15	48	△32
特別損失	467	2	△464
①のれん減損損失	66	—	66
②投資有価証券評価損	49	—	49
③持分法による投資損失	241	—	241
④固定資産減損損失	92	—	92
⑤棚卸資産評価損	16	—	16
税金等調整前当期純損失	688	150	△537
当期純損失	613	76	△536

売上高

主な増収理由は、昨年子会社化したフィスコブレイス社及びシグマベイスキャピタル社の連結効果です。既存事業では、リアルタイム配信やアウトソーシングの法人向けが好調であり、個人投資家向けのサービスが停滞、減少しました。

売上原価、販売費及び一般管理費

主な増加理由は、売上高同様、フィスコブレイス社及びシグマベイスキャピタル社の連結効果です。

特別損失

保有資産について、将来の業績と収益性を慎重に見積り、厳格な評価を実施した結果、467百万円の特別損失を計上しました。

①のれん減損損失（子会社）

フィスコブレイス社（△51百万円）
シグマベイスキャピタル社（△14百万円）

③持分法による投資損失（持分法適用会社）

エヌ・エヌ・エー社株式（△241百万円）
関連各社において業績の低迷、事業計画の遅れが生じ、株式取得時に想定した収益が見込めず、①及び③を計上しました。

②投資有価証券評価損

時価下落による減損処理を行いました。
フィスコ社（△19百万円）
シグマベイスキャピタル社（△30百万円）

④固定資産減損損失

市況悪化に伴う個人向けサービス事業の低迷のため、下記の減損処理を行いました。
フィスコ社
（ソフトウェア・器具及び備品 △78百万円）
フィスコブレイス社
（ソフトウェア △14百万円）

⑤棚卸資産評価損

販売用書籍や教材在庫のうち、滞留在庫について評価減処理を行いました。
シグマベイスキャピタル社（△16百万円）

利益配分について

当社は、株主に対する利益還元につきましては重要な経営課題と認識しており、安定的な株主還元を実施していく方針であります。平成20年12月期は業績を鑑み配当を見送らせていただきましたが、収益基盤の再構築を図り、早期に復配を実現できるよう尽力してまいります。

連結キャッシュ・フロー計算書（要約）

	当期	前期	増減
	平成20年1月1日～ 平成20年12月31日	平成19年1月1日～ 平成19年12月31日	
営業活動によるキャッシュ・フロー	△76	△53	△23
投資活動によるキャッシュ・フロー	25	△245	270
財務活動によるキャッシュ・フロー	△180	631	△811
現金及び現金同等物の期末残高	314	994	△680

当連結会計年度の現金及び現金同等物の期末残高には、子会社の連結範囲の変更に伴う資金減少448百万円があります。

【会社概要】 平成20年12月31日現在

商号 株式会社フィスコ
 本店 東京都千代田区九段北4丁目1番28号
 九段ファーストプレイス7階
 代表者 代表取締役 三木 茂
 設立年月日 1995年5月15日
 資本金 748百万円
 決算期 12月

【役員】 平成21年3月25日現在

代表取締役 三木 茂
 取締役 上中 淳 行
 取締役 八木田 和彦
 取締役 伊藤 正雄
 取締役(社外) 田野 好彦
 常勤監査役 麻生 修平
 監査役 後出 大雄
 監査役 藤井 和雄

【株主メモ】

事業年度	1月1日～12月31日
期末配当金受領株主確定日	12月31日
中間配当金受領株主確定日	6月30日
定時株主総会	毎年3月
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 TEL 0120-232-711 (通話料無料)
上場証券取引所	大阪証券取引所ヘラクレス
公告方法	電子公告により行う 公告掲載URL http://www.fisco.co.jp/notification/index.html (ただし、電子公告によることが出来ない事故、 その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本 経済新聞に公告いたします。)

(ご注意)

- 株券電子化に伴い、株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にでもお取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

IRサイトのご紹介

当社は、金融商品取引法および証券取引所の定める「適時開示規則」に則り、全ての株主・投資家の皆様に対し、迅速で公平、かつ正確な情報開示に努めております。

- | | |
|---------------|---|
| ☑ IRインフォメーション | ☑ IRスケジュール |
| ☑ 業績ハイライト | ☑ IR資料室 |
| ☑ 株価情報 | ☑ 電子公告 |
| ☑ 株式の概要 | ☑ IRお問い合わせ |
| ☑ 株主構成 | http://www.fisco.co.jp/ |

フィスコ

検索

【株式の状況】 平成20年12月31日現在

発行可能株式総数 100,000株
 発行済株式の総数 33,014株(自己株式380株除く)
 株主数 2,241名

大株主(上位10名)	所有株式数(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
株式会社インデックス・ホールディングス	5,978	17.90
三木 茂	2,978	8.92
エーパックスグロービスジャパンファンドLP	2,512	7.52
株式会社サンジ・インターナショナル	1,876	5.62
楽天証券株式会社	1,200	3.59
朝田 英太郎	1,145	3.43
ロイター エスエー	1,100	3.29
荒川 忠秀	656	1.96
クリスティンキャピタルコーポレーション	640	1.92
国際株式会社	542	1.62

【株式分布状況】 平成20年12月31日現在

